

シュローダー グローバル市場見通し

2020年
2月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
新型コロナウイルスの影響により、目先ボラティリティの高い局面が続くことが予想されます。一方、債券と比べ魅力的なバリュエーションや流動性は支援材料になると考え、当面やや強気の見通しとします。	流動性拡大や投資家による高い利回りを模索する動きが支援材料と考えており、より長期の国債および物価連動債を嗜好しています。	世界の中央銀行が広く緩和姿勢を維持していることが、クレジット債の下支え要因になると考えられ、当面ボラティリティの高い環境を見込むものの、やや強気の見通しを維持しています。	新型コロナウイルスの影響により足元軟調な推移となっていますが、流動性拡大等が支援材料になると考え、コモディティ全体の見通しをやや強気で維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 流動性拡大、自社株買い、企業業績等が支援材料となると判断することから、やや強気の見通しを維持しています。
	欧州	 企業業績の上方修正の動きがみられることに加え、ユーロ安や経済指標の改善が見られており、やや強気の見通しとしています。
	日本	 企業業績見通しが減速基調にあるほか、新型コロナウイルス等を巡る不透明感が景気の重しとなると考えることから、やや強気の見通しを中立に引き下げました。
	アジア太平洋（除く日本）	 国内経済の経済指標や輸出関連データに安定化がみられるほか、金融政策も支援材料となると考えます。
	新興国	 新型コロナウイルスの影響が景気を減速させる要因となると考えることから、やや強気の見通しを中立に引き下げました。




シュロダー グローバル市場見通し




2020年
2月

資産クラス	分類		見通し
国債	米国		経済指標には安定化がみられていますが、他の先進国と比べ利回り水準が相対的に高いことから、中立の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)		足元のバリュエーション、金利水準から考え、ドイツ国債に対してはやや弱気の見通しとしています。更に、ドイツ経済の中国経済に対する感応度を踏まえると、今後、状況改善を想定した場合にも、ドイツ国債の魅力度は低いと考えます。
	新興国 (米ドル建て)		資金調達コストが低水準にあること等が、これまでテクニカル面での支援材料となってきましたが、バリュエーション水準には注視する必要があると考えます。
	新興国 (現地通貨建て)		中期的な経済見通しは相対的に前向きであり、インフレ率も抑制された水準で推移している一方、バリュエーション水準には注視する必要があると考えます。
	インフレ連動債		世界経済見通しの改善や、市場見通しよりもインフレ率が上昇する可能性を踏まえ、やや強気の見通しを維持しています。
投資適格社債	米国		投資家による高い利回りを模索する動きが下支え要因であるほか、目先においては需要や流動性も支援材料となると考えます。
	欧州		引き続き、堅調な需要が下支え要因であると考えられるものの、中国へのエクスポートの高さを考慮して中立の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国		テクニカル面での堅調さや流動性拡大を背景に、やや強気の見通しを維持しています。
	欧州		引き続きファンダメンタルズの悪化が懸念されるものの、低金利環境は支援材料となると考えることから中立の見通しを維持しています。

シュローダー グローバル市場見通し

2020年
2月

資産クラス	分類	見通し	
コモディティ (商品先物)	エネルギー		新型コロナウイルス発生が需要の重しとなり、原油価格は低迷していますが、供給量の減少も見込まれることから、需給は均衡すると考えられ、中立の見通しをやや強気に引き上げました。
	金		米国の実質金利が低水準であることは、ポートフォリオにおけるヘッジ手段としての金の魅力度を高めることから、やや強気の見通しを維持しています。
	産業用金属		新型コロナウイルスは、当面経済活動に下押し圧力になると認識しています。一方、足元経済活動は後退するまでには至らず、中期的には需要が回復すると想定しており、中立の見通しをやや強気に引き上げました。

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル		今後、新型コロナウイルスが経済成長に及ぼす影響が不透明であることから、安全資産としての需要が高まる局面もあると判断、中立の見通しをやや強気に引き上げました。
	ユーロ		新型コロナウイルスの影響により、さらにボラティリティが上昇する可能性があることに加え、リスクオフ局面では、ユーロは米ドルをアンダーパフォームする傾向があることから中立の見通しを維持しています。
	日本円		今後、経済減速がみられた場合、日本銀行はさらにハト派姿勢を強める可能性はあるものの、現時点では金融政策の据え置きが見込まれることから、見通しを中立で維持しています。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。